

令和5年度 蒲郡市総合計画外部評価の実施結果

1 第五次蒲郡市総合計画とは

令和3年6月に策定された、本市の最上位計画であり、市制の運営やまちづくりの指針となるものです。総合計画に示す指針や方向に基づいて、各分野における計画や施策を内部、及び外部から評価をしながら、将来の都市像に向け施策の改善を進めるものです。

2 蒲郡市総合計画外部評価の目的

総合計画に関する進捗状況を把握し、行政外部の第三者の視点で評価することにより、客観性及び透明性を確保するとともに、更なる行政サービスの向上と効果的な行政運営を図り、進捗状況に関して、最適化を図っていきます。

3 基本施策評価対象

施策評価は、令和5年度では、第五次蒲郡市総合計画にある基本目標6つの内、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた「健康・福祉」から「子育て支援」、「高齢者福祉」、「健康づくり」の3つの基本施策を対象とし、基本目標「教育・文化」から「学校教育」、「文化芸術」の2つの基本施策を対象としました。また、施策全体の評価として「公共施設マネジメント」を対象とし、計6施策を外部委員より評価いただいた。

4 評価手順

基本施策評価

第五次蒲郡市総合計画を構成する基本施策について、成果指標の達成度等から現状評価を行い、必要性、有効性、効率性等の視点から今後の見直し改善策を明らかにしました。

(1)内部評価

担当課で評価シートにより自己評価を実施し、施策の進捗状況や課題などを踏まえ現状評価を行い、特筆すべき成果や課題、今後の改善点・方向性などについて総括しました。

(2)外部評価(「別紙」のとおり)

評価の客観性をより高めるため、蒲郡市総合計画外部評価委員会において内部評価を検証しました。委員が選定した6施策について、施策の進捗状況や課題等から現状評価を行い、課題や今後の改善点・方向性等についての委員の意見を取りまとめました。

(3)その他

総合計画の評価の一環として市民の意見を聞くことが重要であることから、毎年2回、市民と市長との対話の場所として開催される「まちづくり市民フォーラム」、2年に1回実施される市民意識調査を評価の一環として行います。

5 総合計画外部評価 総括

(1) 定量評価

施策名	①目標指標の達成度、及び達成度に伴う改善策	②事業の成果	③事業の効率化	④課題認識及び解決への取組	⑤今後の方向性
子育て支援	3.0	3.6	3.1	2.9	2.9
高齢者福祉	3.1	3.4	3.1	3.0	3.1
健康づくり	3.5	3.6	3.5	3.1	3.3
学校教育	3.3	3.5	3.1	3.0	2.9
文化芸術	2.8	3.0	2.4	2.1	2.4
公共施設マネジメント	-	3.3	2.9	2.3	2.3

※4段階評価 4.適正 3.おおむね適正 2.改善の余地あり 1.抜本的改革必要

※公共施設マネジメントの①目標指標の達成度、及び達成度に伴う改善策に関しては、基本施策としての評価ではないため指標が存在せず対象外とする。

①目標指標の達成度、及び達成度に伴う改善策については、多くの施策で3(おおむね適正)という評価を受けたが、「文化芸術」に関しては、現状分析や改善策が足りていないという指摘もあり3を下回っている。②事業の成果については、全ての事業で3以上の評価であり、特に「子育て支援」、「健康づくり」に関しては高い評価を受けている。③事業の効率化については、「健康づくり」が高い評価を受けており、「文化芸術」に関しては、各文化施設の運営方法や周知方法に関して改善の余地が指摘され3を下回った。④課題認識及び解決への取組については、市民アンケート等の意見が反映されていないという意見が多く「文化芸術」、「公共施設マネジメント」において低い評価となった。⑤今後の方向性についても、方向性がよくわからないという意見もあり「文化芸術」、「公共施設マネジメント」において低い評価となった。

(2) 定性評価

・子育て支援

子育て支援施策は一部成功を収めているが、保護者の満足度は低下しており、アンケートの反応や施策の連動性が課題です。実績としては、「にこにこ」プロジェクトの効果や低年齢児保育の充実が挙げられますが、共働き、発達の多様、外国籍の対応など様々な保護者のニーズに更に応えるため、企業連携や経済支援の強化を提案します。今後は子育ての多様な問題に対応し、地方行政の特色を生かした制度づくりを期待します。

・高齢者福祉

高齢者福祉では、対面事業の減少による介護の維持や住みやすさの指標低下が指摘されます。医療・介護人材の育成、情報共有の改善、市民との連携強化が急務であるが、地域学校協働活動推進員などの高齢者と子どもの連携は進んでおり、今後は、高齢者になっても安心な地域づくりとフレイル予防を期待します。

・健康づくり

健康づくりでは、内臓脂肪症候群該当者の割合が改善されたが、運動不足は依然として問題です。市民の健康に関する幅広い啓発事業は目標を達成していますが、市民が体を動かす場所の拡充や、健康診断の受診率向上や健康づくりの自主性強化が求められています。特に、ラジオ体操100日チャレンジやほほえみ体操、妊娠・出産・子育てサポート事業のような具体的なプロジェクトは評価しており、これらの成功を他の施策にも応用することを期待します。

・学校教育

学校教育では、小中一貫教育の推進と教員事務の負担軽減の必要性があります。児童生徒の授業理解と学習の楽しさの指標は高いが、アクティブラーニングの強化や不登校、保健室登校の児童生徒のサポートも重要と考えます。また、35人学級の実現やコミュニティ・スクールの取り組みは良く、地域との役割分担を考えながら連携を深める事が今後の課題です。

・文化芸術

文化芸術では、目標指標は達成していますが、市民アンケートの活用不足が課題です。市民会館や図書館の運営、多世代間交流の促進は評価しますが、施設の老朽化への対応や運営時間の延長など、市民ニーズへの柔軟な応え方が必要と考えます。特に、若い世代や高齢者の参加機会創出が重要であり、文化活動による孤立解消と生涯学習の充実を期待しています。

・公共施設マネジメント

地区利用型施設では、施設の分類と再配置、維持管理、効率的なマネジメントの取り組みを評価しています。一方で、全市利用型施設では、人口減少に伴う床面積削減の目標と施設増加の現状が矛盾している点については課題があります。市民の意見を尊重しつつも将来の人口動態やテクノロジーの進展を考慮した施設が必要です。施設の多目的利用や市民参加を重視し、駅前の利便性向上も市民からは求められています。

6 今後の方向性

市の様々な分野における外部評価を総括すると、市民の期待に応える施策展開への取り組みが進んでいますが、まだ改善の余地がみられました。人口減少が進み、担い手が減っていく中、子育て支援の連携強化、高齢者福祉の人材育成、健康づくりの活動促進、学校教育の個々のニーズへの対応、文化芸術の世代間交流、公共施設の効率的な管理といった分野で、市民の声に耳を傾け、持続可能な改善策を打ち出していくことが求められています。これらの評価を踏まえ、高齢化を考慮した市民との協働を深めると共に、市役所内の連携も強化し、より良い生活環境の実現に向けて前進していくよう事業の改善を進めていきます。